過去に測定した表面研磨していないアルミニウムH材データの見直し

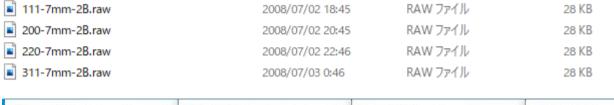
概要

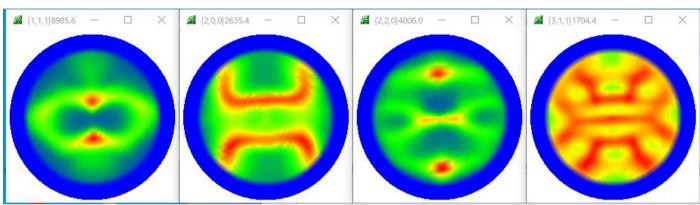
2008年に測定した表面研磨していないアウミニウム材のCu, Mo管球による測定比較 反射法では、表面研磨により厚さ1/2位置の測定が推奨されている。

しかし、研磨には技術が必要になるので、当時はそのまま測定を行っていた。

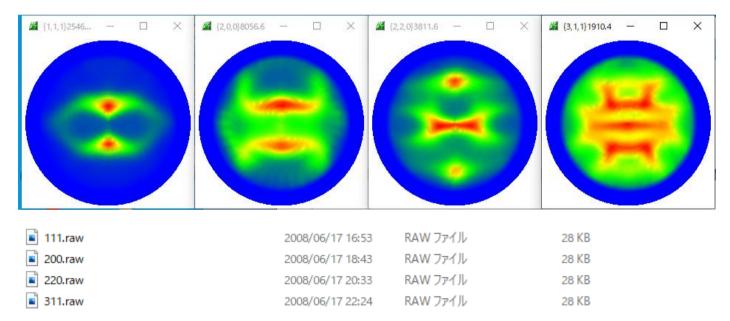
厚さ1mmのCu, Mo管球測定データを最新のソフトウエアで評価を行ってみます。

Cu管球測定データ





Mo管球測定データ

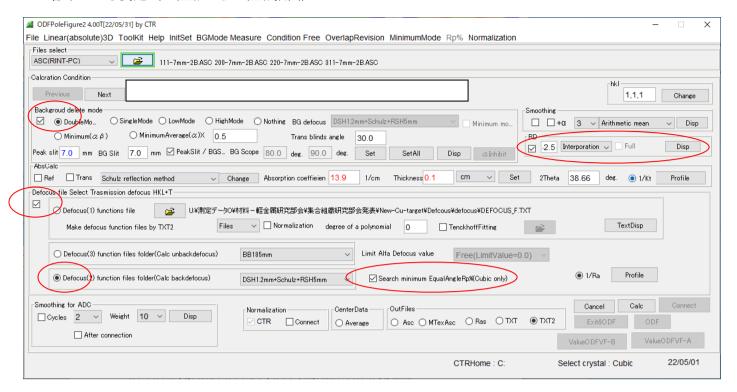


Mo管球では、defocusが大きい事が認められます。

評価方法

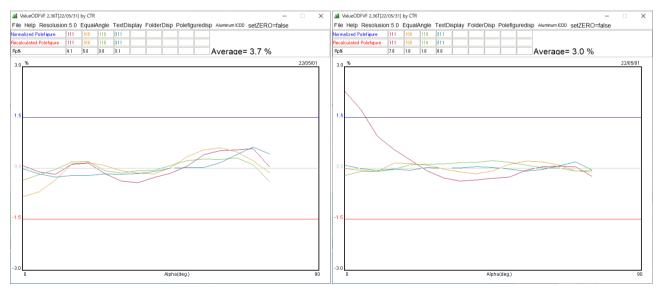
defocusはODFPoleFigure2の計算defocusを使用Rp%の最適化を行い、Rp%の悪い極点図は除くLaboTex (ADC), MTEX (Hermionic) とnewODF, pooAのWIMVを比較する。

Cu管球による測定(4極点から3極点抽出)



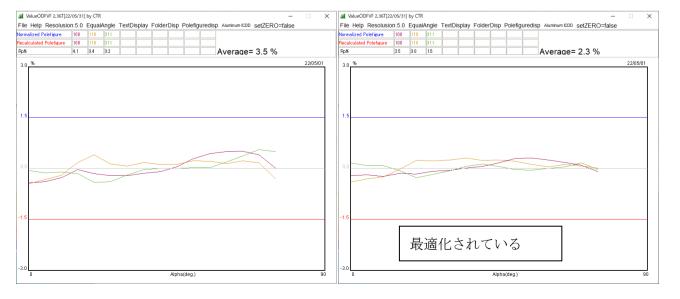
計算 defocus の Rp%

+最適化 Rp%



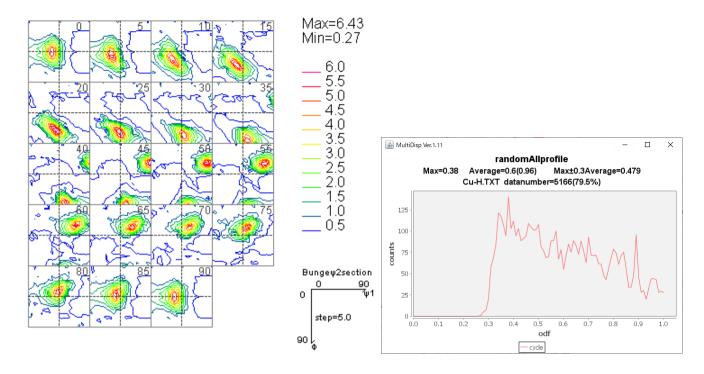
{111}除く

+Rp%

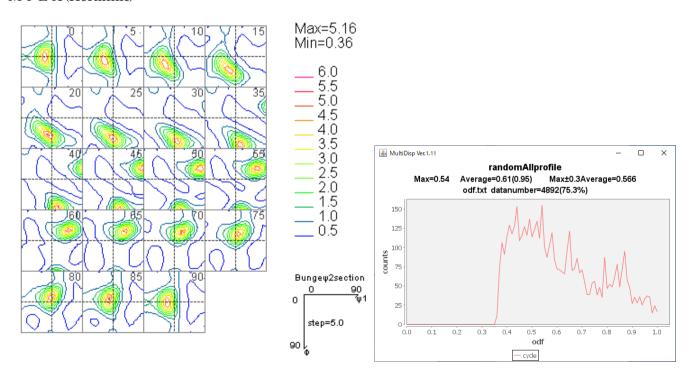


Cu管球測定データ

LaboTex(ADC)

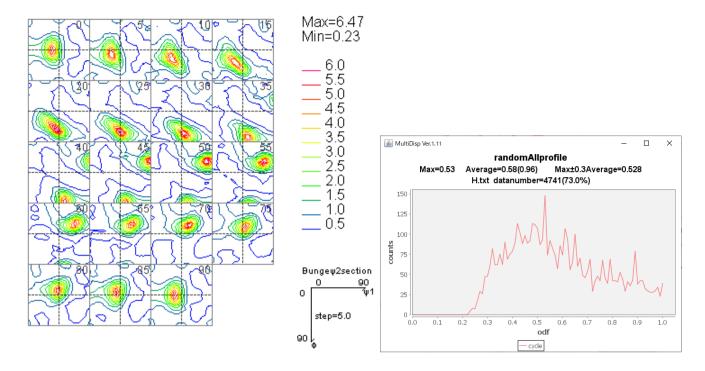


MTEX(Herminic)

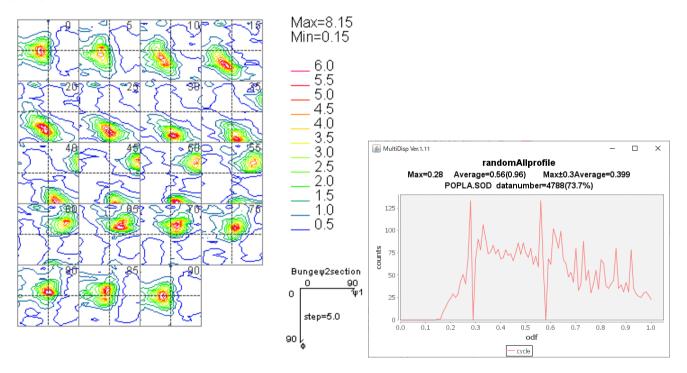


LaboTex, MTEXでrandomを検出

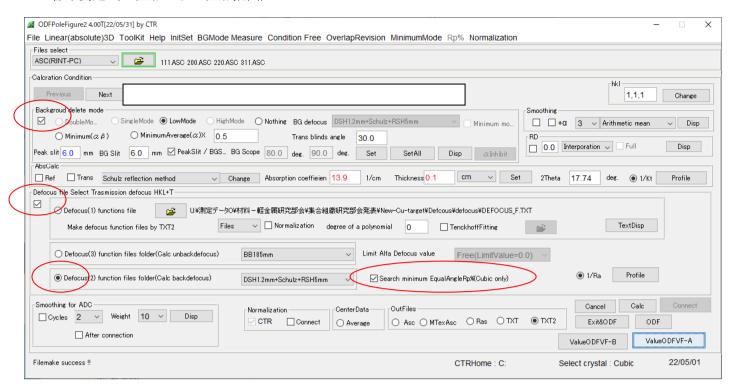
newODF (WIMV)



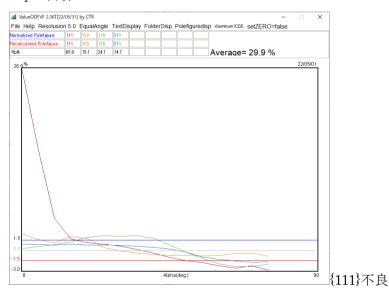
popLA (WIMV)



Mo管球測定(4極点から3極点抽出)

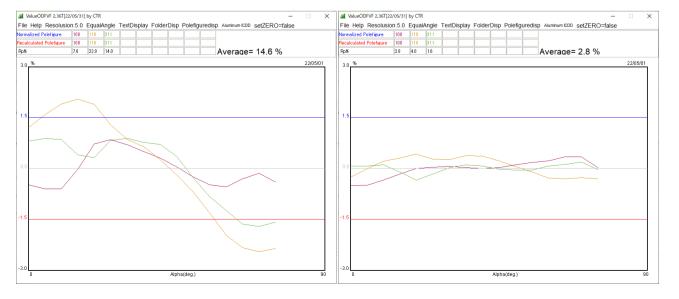


Rp%計算

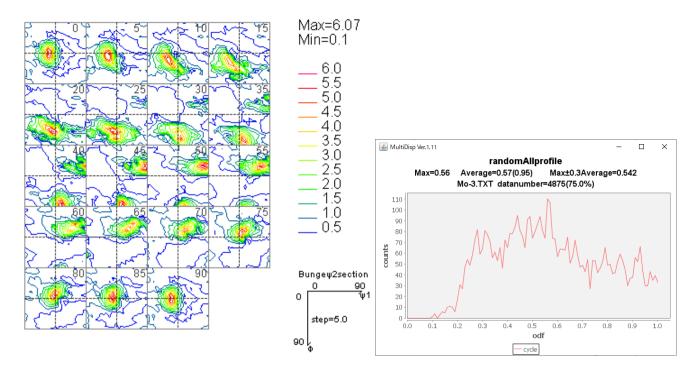


{111}除く

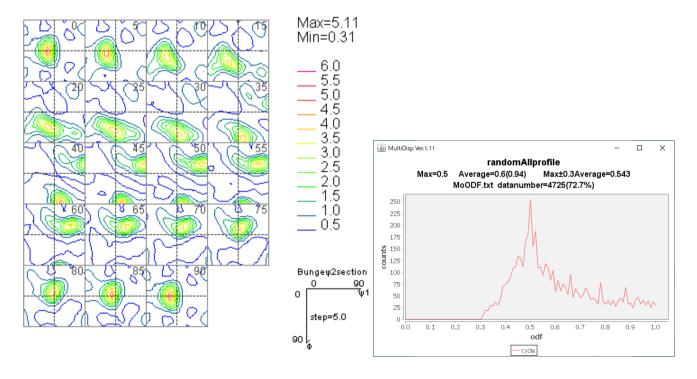
+最適化 Rp%



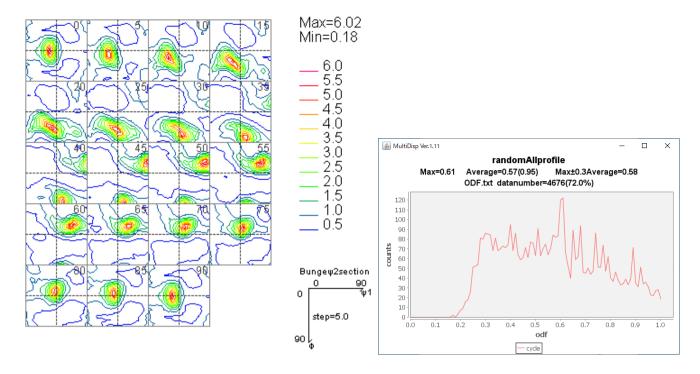
LaboTex (ADC)



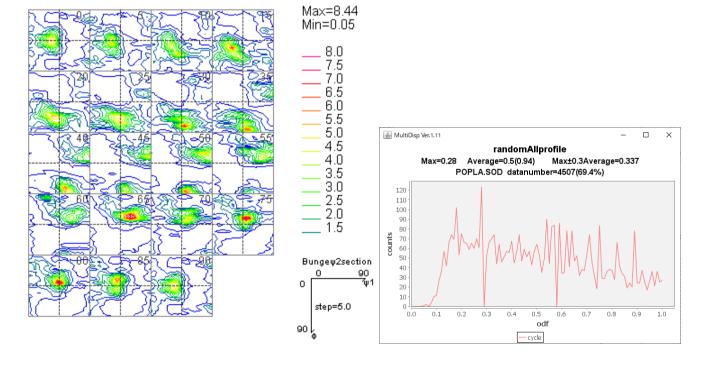
MTEX (Herminic)



newODF (WIMV)



popLA (WIMV)



まとめ

r a n d o m シュミレーションと異なり、すべての O D F 解析で r a n d o m プロファイルは同じような結果が観察できます。

	Cu管球			Mo管球		
	ODF	random		ODF	random	
	Max	Max	平均	Max	Max	平均
LaboTex	6.43	38%	60%	6.07	56%	57%
MTEX	5.16	54%	61 %	5.11	50%	60%
newODF	6.47	53%	58%	6.02	61%	57%
popLA	8.16	28%	56%	8.44	28%	50%

正確に評価を行うため、極点処理では、 d e f o c u s 補正を行い、最適化 R p %を確認しながら不適当な極点図を削除した。

本試料の場合、random成分が確認されている。

CuとMo管球では波長の関係で、測定個所の深さが異なります。

この結果を方位の定量(VF%)に反映させると事が出来ます。